

難波西鶴と 海の道

【27】

森田 雅也

(一)まで、難波西鶴と海の道を松前、酒田と見てきましたが、次は佐渡です。

佐渡と言えば、佐渡島。日本で一番大きな島として有名ですが、その歴史は独自の足跡を残しています。佐渡は、大化改新後に北陸道7カ国の一つとして、越後国から分かれて成立しました。小さくても二国であったのです。

神亀元(724)年、速流の地に定められ、

順徳天皇、日蓮、世阿弥などが流されまし

た。天正5(1577)年、守護の本間氏に代

わって上杉氏が領有し

ます。慶長6(1601)年には、相川金山

が開発され、江戸幕府

の直轄領となったので

す。(『国語大辞典』)

また、佐渡は世阿弥

が流されたこともあ

って、今でも能楽が盛ん

です。「のろま人形」という操り人形は、独

一つの文化圏形成

特の道化人形として貴重な伝統芸能の残存の場といえるでしょう。

その自然や漁場としての素晴らしさはとて

おき、日本海に浮かぶ

巨大なこの島が、海上

交通、海運の要衝の地

になり得たことはい

までもありません。

佐渡には、両津、赤

泊、小木などの良港を

持ちますが、とくに小

木港は、西廻り航路開

発の際、風待港として

定められました。相川

金山の算出金の積み出

し港としても栄えた佐

渡の小木ですが、近く

に那もあり、一つの文

化圏を形成していま

す。

(存知のように、芭

蕉は佐渡島には渡ら

ず、元禄2年7月7日、

代男「巻三の五には、

新海県直江津での佐藤

元仙宅での句会で、有

名な発句を詠みまし

た。

荒海や佐渡によこた

ふ天河

実際は7月4日の晴

れた夜、出雲崎で構想

されたものとされま

す。当時、出雲崎から

赤泊という佐渡渡航ル

ートがあったのです

が、芭蕉は渡りません

でした。実際、佐渡島

への距離は、近くても

50 km近くあります

から、旅人にとっては冒

険といえるでしょう。

西鶴も『本朝榎陰比

事』に佐渡島からの人

が事件に巻き込まれる

話を挙げていますが、

佐渡の花街は出て来ま

せん。ただ、『好色一

部文学言語学教授)

「佐渡の国かな山に望

み懸け行くに、十八里

こなた出雲崎といふ所

海上交通の要衝 佐渡